

## 2006年3月の大気大循環と世界の天候

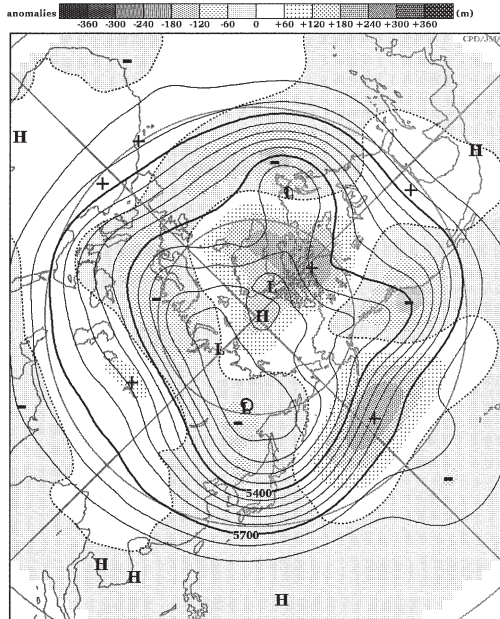
### 大気大循環

北半球500 hPa 高度では、高緯度の西半球側で正偏差が分布し、特にグリーンランドからカナダ北部にかけて顕著な正偏差が見られ、極うずは平年より弱かった。一方、中緯度では大西洋と北米西岸に顕著な負偏差が見られた他、東シベリア付近とヨーロッパから西シベリアにかけても負偏差が分布した。太平洋では日付変更線付近で顕著な正偏差が見られた。

熱帯の対流活動は、インドネシア付近、フィリピン付近、ベンガル湾南部、ハワイ付近で平年より活発で、インド洋南部、中～東部太平洋で平年より不活発だった。SPCZ（南太平洋収束帯）は上旬から中旬にかけて平年より活発だった。中旬にマダガスカル付近で熱帯擾乱が発生し、平年より活発となった。

850 hPa 流線関数および風ベクトルでは、対流活動の活発域に対応して、ハワイ付近に低気圧性循環偏差が見られた。インド洋では、上旬から中旬にかけて赤道を挟んで対の低気圧性循環偏差が見られ、特に南半球側では偏差が明瞭だった。太平洋の南半球側では全体的に高気圧性循環偏差が明瞭だった。

SOI（南方振動指数）は、2月は平年並だったが、今月は+1.3とプラスの値になった。



2006年3月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差  
等値線間隔は60 m、偏差パターン間隔は60 m、平年値は1979～1993年のECMWF15年再解析データによる。

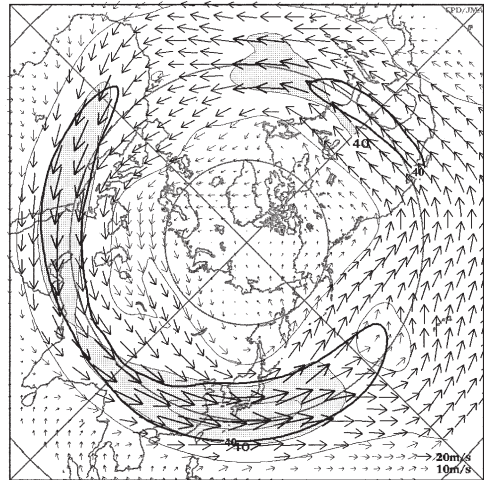
### 世界の天候

- ① 北日本からバイカル湖周辺の多雨
- ② 朝鮮半島からモンゴル西部の少雨
- ③ 中央アジアからアラビア半島の高温
- ④ パキスタン南部からインド西部の多雨
- ⑤ 西シベリアからヨーロッパ南部の多雨  
ヨーロッパ中南部では、上旬に大雪となり、事故などで15人以上が死亡したと伝えられた。下旬には融雪洪水の発生が報じられた。
- ⑥ ヨーロッパ北部の低温
- ⑦ アフリカ北西部の高温
- ⑧ グリーンランド南西部からカナダ北東部の高温
- ⑨ 北米東部から南部の少雨

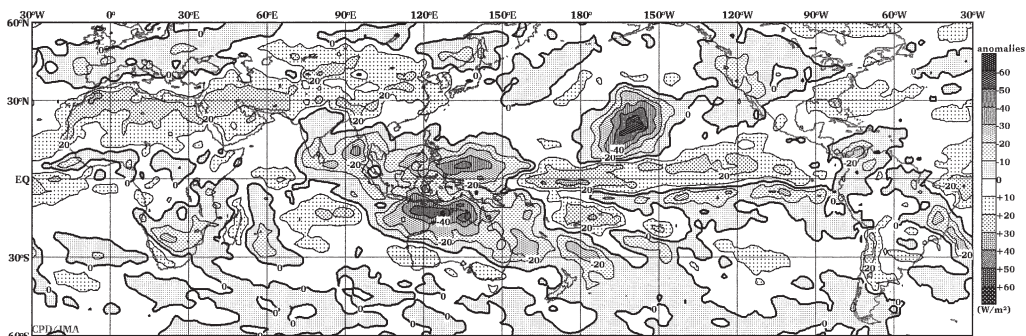
米国南部では、乾燥した日が続き、中旬に大規模火災が発生したと報じられた。この火災により約3400平方キロメートルが焼失したほか、煙による視界不良が原因の交通事故等で11人が死亡し、家畜や農作物にも被害が出たと伝えられた。

- ⑩ 米国南部からメキシコの高温
- ⑪ 米国西部沿岸の低温
- ⑫ ブラジル東部の高温

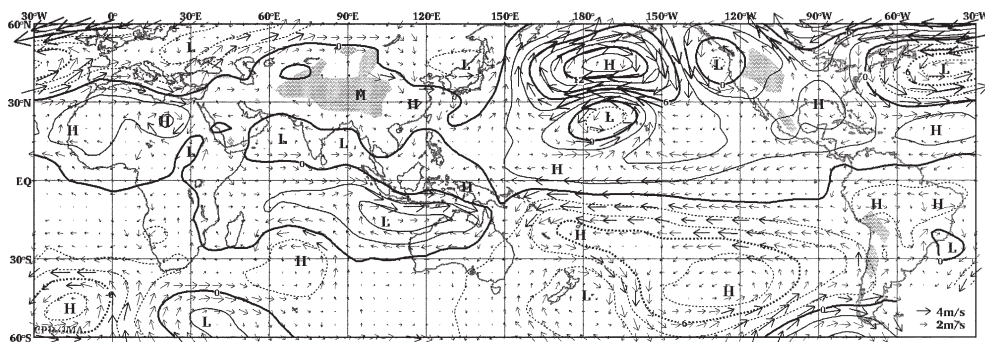
（気象庁地球環境・海洋部気候情報課 松田亜希子）



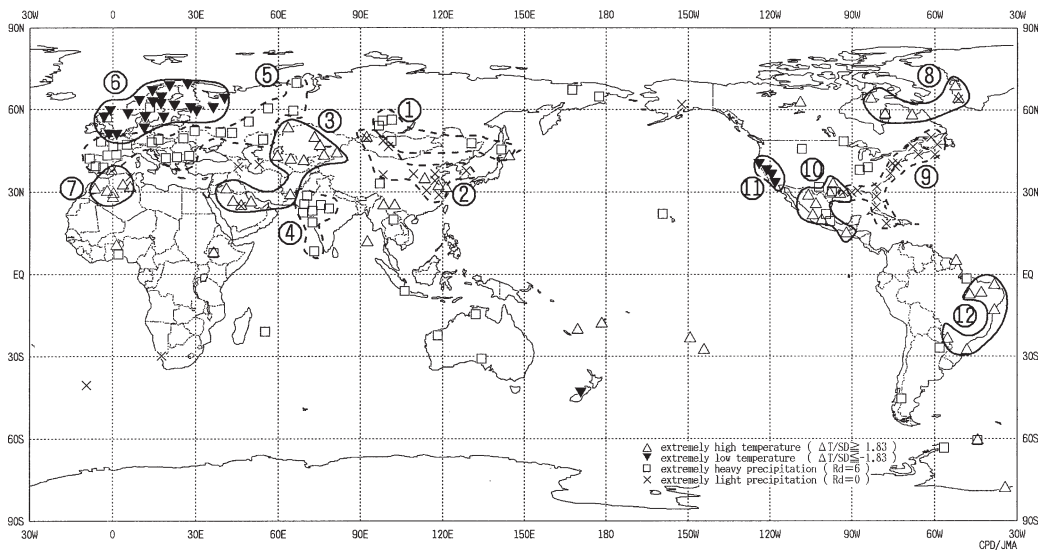
2006年3月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル  
等値線間隔は20 m/s、陰影部は40 m/s以上、太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す。平年値は1979～1993年のECMWF15年再解析データによる。



2006年3月の月平均外向き長波放射量年偏差  
 等値線間隔は 10 W/m<sup>2</sup>で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは CPC/NCEP/NOAA, 平年値は1979~2000年のデータから作成。



2006年3月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル  
 流線関数の偏差の等値線間隔は  $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2006年3月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▽異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している。